

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：令和 6年 3月 27日

事業所名： がんばりっこ甲南山手

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	法令を遵守したスペースを確保している。宿題・活動を階（フロア）を別けている。	ほとんどの保護者が確保できていると評価されている	活動内容により、1Fと2Fのフロアにわけて安全にすごせるようにする
	2	職員の適切な配置	法令にさだめられている配置に加え常に児童指導員または保育士を2名以上配置している。	新しい支援員は送迎時に紹介してもらっている	広報で現在の状況を知らせていく。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	3階建てで階段があるのでバリアフリーとは言えない。構造化は絵カード等の視覚支援で準備等を促している。	片付ける場所がわかりにくいと評価があった	絵カード、表示板等で、視覚的にわかりやすくする。階段は支援員が声かけをして見守りを徹底する
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	日々の中で衛生管理チェック表を使用している。今年度も換気、手指消毒の徹底に努めた	清潔にしているとされていると評価が多かった。	今後も衛生チェック表を使用しての徹底に努めていく。整理整頓をして安全にすごせるようつとめる
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	毎日始業前にミーティングをしている。毎月支援会議をして議題の提出を命じて行っている。		児童来所前、ミーティング時に、支援方法等確認していく。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	利用者、社内での評価、改善にとどまっている。		神戸市巡回支援で、環境設定、支援方法等をアドバイスいただいたことを、実践している
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	年間計画で全職員対象で研修に参加してもらっている。オンラインセミナーも活用している		今後も外部、当所内含め、研修には積極的に参加してもらおう。オンラインセミナーも活用していく
適切な支援の	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	計画期間毎にモニタリング・アセスメントを取り放課後等デイサービス個別支援計画を作成している。	いろいろなプログラムがあると評価いただいた。	今年度は、保護者会を開催した。全職員にもモニタリングを作成してもらい、いろんな視野からの子どもの状況を客観的に見て、個別支援計画に反映していく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	計画期間毎にモニタリング・アセスメントを取り放課後等デイサービス個別支援計画を作成している。		

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
提供	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	されている言う評価が多かった。		
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施		年間計画、月間計画も引き続き全支援員で立案する。	
適切な支援の提供（続き）	5	チーム全体での活動プログラムの立案	いろいろな活動やイベントがあり楽しんでいると言う評価もいただいた。	今後もチームでプログラムの立案をしていく。いろんなスタッフに日直や当番で前に出る機会を持ってもらいプログラムの活性化を図る。	
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援		長期休暇にしかできない事を固定化されないように努めていく。	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施		固定化しないようにいろんな角度からプログラムの活性化を図る。	
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底			
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化			ヒヤリハット、事故報告書を活用し、事故に繋がらないように意識する。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施			

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	計画期間毎にモニタリング・アセスメントを取り放課後等デイサービス個別支援計画を作成している。特記事項があれば速やかに変更もする。		
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	セルフプランの対象者の関係機関を交えてのサービス担当者会議は未だなされていない。地域の事業所の管理者との共有の時間を持つようにしている。		今後必要に応じて努めていく。
	2 （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	てんかんのある利用者に関しては通院している医療機関の連絡先は確認している。また保護者にも、どのようなケアが必要か聞いている		てんかんの変化、薬の変更が無いか、計画作成時期にも確認する。
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	保育所や未就学児の移行時の情報共有は未だなされていない。		新一年生の受入時など連携が取れるように努めていく。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	今年度は、利用する児童はいない		実際に行ったこともあるが今後さらに連携を取れるように努めていく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	地域の支援センターとは連携を取れるようにしている。		今後も支援センター等との連携をとるように努めていく。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会	今年も地域の行事にも参加出来ていない。	公園等、外出時にあるのかも？という評価があった	地域と連携してイベント開催時には案内

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域に向けた招待は出来ていない。	わからないと言う評価が多かった。	ができるよう努める。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	運営規定、利用者負担、当事業所の活動内容等は体験・見学時、契約時に説明して理解いただいて契約している。	されていると言う評価が多かった。	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		されていると言う評価が多かった。	
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングは行えていなが、一般のペアレント・トレーニングの研修に参加して知識を得るように取組んでいる。	ペアレントトレーニング自体がわからない。電話等で相談しているという評価であった	知識を得て取り組むように努める。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡帳のやり取りをして、送迎時にもその日の出来事のやり取りを徹底している。	されていると言う評価が多かった。	連絡帳だけでなく送迎や電話でしっかり伝えていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	連絡帳・送迎時や、モニタリング時に今後の支援と保護者の思いの話が出来るようにしている。	されている言う評価が多かった。	面談をしっかりと保護者に寄り添えるように努める。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	毎年一回事業所主催の保護者会を行い。地域の社会福祉協議会に加盟して保護者の集いの催しをしていたが、コロナの件で開催していない	知らなかった保護者がいた。	案内は出しているがもっと声かけ誘いかけをしていく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	相談対応者を伝え、相談があった際に相談記録に残し周知している。	苦情というよりは、困ったことは相談できている	保護者の相談出来る環境、迅速に対応できる環境設定に努めていく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	児童にコミュニケーションツールとしてカラーワークやタッチケアも取り入れて、利用者の意思の疎通のツールに出来るように取組んでいる。	わからないと言う評価が多かった	今後も配慮して努めていく。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	大切なお知らせとして様々な事は発信している。コロナの事で日々変わる中で事業所の方針もその都度検討している。	送迎時に、様子を聞いている	今年度開設されたがあまり活用できていない。今後取り入れていく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報は外には出さないように徹底。他事業所の連携時も共有する旨を伝え、他者には伝わらないように場所や時間を考えて共有している。	されていると評価が多かった。	個人情報取り扱いマニュアルの周知の徹底に努めていく。
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを作り年に一回全員で研修をするように徹底している。	知らなかった保護者がいた。	職員だけでなく保護者にも周知を徹底する。広報の仕方もSNS等でしていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に2回、（地震・津波）と（火災）の避難訓練を実施している。	知らなかった保護者がいた。	予定表にも明記されているも当日利用していない利用者の保護者にも周知していくようにする。振り返りの広報もしていく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年間計画で年に一回外部研修に行く職員を決めてその職員から全体に研修してもらい周知して行っている。今年は地域の協議会主催の研修もあった。		毎年全員が行く研修を今後も続けていく。毎年研修に行く支援員を変えてた支援員に降ろしてもらう。地域主催の勉強会も参加している。今後も参加したい。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	契約時に説明してもらい同意いただいている。		個別支援計画にも反映して説明を計画時期にする。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時に確認しているが支持書などは頂いていない。薬手帳の書類の提出に協力してもらっている。		指示書などがある方には協力してもらう。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット報告書を記載してもらい、ミーティング・支援会議で共有している。今年は何度も書いてもらった、地域の事業所連絡会でも共有している。		ミーティングで出た内容を事例として事業所内事業所外でヒヤリハットに反映して事故の無いように努めていく。